

1. 評価結果概要表

平成 21年 2月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	2090500063
法人名	社会福祉法人みなみ信州
事業所名	グループホームあぐり山本
所在地	長野県飯田市竹佐653-1 (電話) 0265-28-1173

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年1月24日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(20年 12月 5日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 16日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤8人 非常勤1人 常勤換算8.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (12月 5日 現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3		要介護4	1名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.3 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横田医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人として、初めに認知症対応のデイサービスセンターを開設した。しかし、認知症のケアは24時間必要であると、3年前にグループホームをたちあげ、この地域に2ヵ所目のホームを開設した。開所2ヶ月前から、職員みんなで準備を行い、理念についても“1、その人らしく「穏やかに」「安心して」「深く理解し」「自立に向けて」継続的に支援します 2、家族・入居者様との信頼関係を大切にします 3、家庭的な雰囲気大切にしながら、なじみのある暮らしを創り、地域で支えるまちづくりに貢献していきます”とみんなで話し合いをかさねて作り上げた。この職員の思いが、日々の介護にも活かされ、記録の整備から始まり、一人ひとりを大切にしたい利用者本位の介護、ゆっくりとした暮らし、地域に根ざした活動など、今後もさらに家庭的な温かいホームとなっていくことが期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年4月に開所したホームで、今回が初めての評価となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について話し合い、常勤職員全員が自己評価を行なったものを、管理者や施設長がまとめ、職員に報告をしている。開設して1年未満であるが、自己評価を行ってみて、自分達がやってきたことを再確認でき、さらにやるべき課題等をみんなで話し合っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	推進会議には、入居者や家族の代表、地域づくり委員、地区の市議員、民生委員、女性委員、ボランティア代表、住民代表(隣家等)、消防団、JA支所長、地域包括支援センター等多方面からの参加がある。9月には、前回出された意見を活かし、消防団長を中心に防災訓練を行い会議を開き、11月には活動報告や評価についての説明を行った。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年4回の「あぐり山本便り」、毎月1回の個別の様子を書いたお便りの送付など行い、家族等に安心してもらえるように配慮している。また、面会時には話を聞くようにしており、他には、推進会議に家族代表に参加してもらい意見を出してもらっている。家族会も開いており、出された意見については職員会で話し合っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園や小学校の運動会に参加、音楽会の見学など行っている。おり、小学校の福祉委員会の子どもたち等が訪問してくれている。地域のお祭りにも参加するなど、積極的に交流の機会を作っている。また、散歩や近くのお店に買物に行くと、近所の方が声をかけてくれたり、野菜等のいただきものもある。今年度、下期の目標に“地域資源との協働・質の向上”をあげ、取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の3つ目に、「家庭的な雰囲気を大切にしながら、なじみのある暮らしを創り、地域で支えあえるまちづくりに貢献していきます」とある。また、キーワードは“その人らしく”“家庭的”“地域に根ざしたなじみのある暮らし”である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3項目の理念は、開所準備の中でみんなで考え創り上げてきている。月2回の会議の時には、会議の資料に理念を載せ、みんなで読み合わせを行い、理念に添ったケアができ確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園・小学校の運動会に参加する、音楽会の見学に行くなどしている。また、小学校の福祉委員会等の子どもたちが訪問をしてくれている。地域のお祭りにも参加しており、積極的に交流の機会を作るようにしている。今年度、下期の目標にも“地域資源との協働・質の向上”があげられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について話し合い、常勤職員全員が自己評価を行なったものをまとめ、それを職員に報告をした。開設して1年未満だが、自己評価を行ってみて、自分達がやってきたことを再確認でき、さらにやるべき課題等をみんなで話し合った。		

グループホームあぐり山本

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議には、入居者や家族の代表、地域づくり委員、地区の市議員、民生委員、女性委員、ボランティア代表、住民代表(隣家)、消防団、JA支所長、地域包括支援センター等多方面からの参加がある。9月は、意見を活かし消防分団長を中心に防災訓練を兼ねて会議を開き、11月には活動報告や評価について説明を行った。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて、相談に行ったり報告を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回の「あぐり山本便り」毎月1回写真や金銭出納帳のコピーと一緒に、担当者が個別に様子を書いたお便りを送っている。また、面会時にも状況を話したりしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に話を聞くようにしている。また、運営推進委員会に利用者や家族の代表に参加してもらい、そこで意見を聞くようにしている。家族会も開いており、出された意見等については、職員会で話し合っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在のところ、退職や異動はない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人としての教育研修計画がある。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	飯田下伊那地区のグループホーム連絡会に参加して情報等を得たり、学習を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人が見学に来た例は1人だが、職員が家へ訪問するなどし面接を行い本人と話をし顔覚えてもらっている。家族や担当ケアマネジャーには、来てもらい安心して利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	男性職員に料理を教えてくれたり、伝統食、繭玉作り、干し柿作りなど一緒にやりながら教わっている。他には、歌や昔話、あるいは死生観など、話をする中で学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を利用して、本人の思いや状況等の情報収集を行い整理をしている。また、日頃の様子や会話の中で、利用者の思いを汲み取りケア会議で話し合っている。しかし、センター方式の活用が今後の課題となっている。</p>		<p>職員全体で、利用者の思いを汲み取って、ケアをしていこうという姿勢が感じられる。今後、さらに得た情報を整理する中で、利用者の思いや意向を客観的に捉え、ケアに活かしていくことを期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者からも話を聞き、家族からも機会を作って話を聞いている。また、ケア会議を月1回開き、みんなで意見を出し合い、介護計画を作成している。日々の記録についても、ケアプランの実施状況や介護明細(介護の実施について時間を追って記入)を記入している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しを行うことと合わせて、ケア会議の中で、一人ひとりの状況に合わせてプランの見直しを行っている。また、毎月のモニタリングの記録も整備されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問看護を取り入れ、医療との連携体制を活かし、24時間の健康管理や必要に応じて通院の支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望するかかりつけ医にしており、往診や通院で対応している。家族が通院に連れて行けない時は、職員が行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に「終末期に関する同意書」として、状態が悪くなった場合や急変に対しての意向調査を行っている。職員間でも話し合いを行い方針の共有に努めている。その後の意志確認は行っていないので、継続して話し合いを持つよう検討中である。</p>		<p>今後、職員間の学習も行い意思統一をはかりながら、機会を設けて継続的に家族等と話し合いを持つことを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>コンプライアンスの研修を年2回行い、個人情報についても利用者に関するメモ等はシュレッダーにかける、目の前で記録をしないなど注意をしている。また、言葉遣いについても配慮を心掛けている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課は一応あるが、起きる時間やお茶を部屋で飲みたい人には飲んでもらうなど希望に沿って生活が出来るように工夫している。</p>		

グループホームあぐり山本

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、片付け、洗い物などそれぞれに出来ることを一緒におこなっている。献立は、みんなに聞きながら立てており、誕生日にはその人の好きなものをメニューに取り入れている。また、自分の箸、お茶碗、お湯のみを使用し、職員も一緒に楽しみながら食事をとっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かし、午後から夕方にかけて利用者と相談しながら入ってもらっている。夕食後に入ることもあり、ゆっくり楽しんで入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、手芸、洗濯物たたみ、掃除、雪かき、歌など、日常的に出来る役割、好きなことを楽しめるようにしている。また、音楽療法を取り入れたり、季節ごとの催しや外出を行い気晴らしができるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにお店があるので買い物に一緒に行ったり、散歩、自宅の近い利用者は自宅へ行くなどしている。希望を聞きながらみんなで行くだけでなく、個々に1対1での外出もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜のみで昼間は鍵はしていない。チャイムがなるようにしてある。		

グループホームめぐり山本

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>緊急の連絡体制や避難経路などのマニュアルが整備されている。運営推進委員の協力があり、実際に委員の分団長を中心に運営委員会で避難訓練を行った。また、緊急時には近くの人の協力が得られるようになっている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>開所前に、勉強会を行い管理栄養士から栄養や献立について学んでいる。体重、食事量のチェックを日常的に行って栄養バランスに気をつけている。調理方法も体調や状態にあわせて支援している。利用する食材は、ホームの畑で作った野菜や直売を利用して、食の安全にも配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>みんなが集まる食堂は和室の続きにあり、コタツが置かれ落ち着いた雰囲気になっている。南天や万年青が飾られ、季節を感じることが出来る。トイレ等不快な臭いもない。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれ、こたつを置いたり、たんすやベッドなど持ち込み、写真、カレンダー、時計等が飾られ、居心地よく生活できるように工夫されている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。